

ふむふむ！鶴岡景観探険まちあるき

～城下町の小路と歴史的建造物等を巡ろう～

鶴岡市では、美しい山水が織りなす景観を取り込み、城下町の風情が残る町割を大切にしてきました。今回は、城下町由来の小路や歴史的建造物を巡り、世代を超えて受け継がれてきた景観に対する美意識を垣間見ながら、街の魅力を再発見してきました。



①十日町口木戸跡②鶴園橋

城下町周辺には木戸跡が多く残されています。

この鶴園橋は、江戸初期にこの橋が架けられた時には十日町橋と名付けられました。明治に入って架け替えられる時に三日橋や五日橋とともに名称が変更されたとのことです。鶴ヶ岡城の跡に造られた鶴岡公園がその名の由来とする説があるそうです。

鶴岡公園二の丸広場から出発！

鶴岡市では景観計画の改定や、歴史的風致維持向上計画2期計画を策定して、鶴ヶ岡城周辺の歴史的建造物やまちなみの景観を保全しています。今回は、それらを巡る景観探険まちあるきを開催しました。紅葉が色づきはじめた鶴岡公園二の丸広場には40名を超える参加者が集まりました。

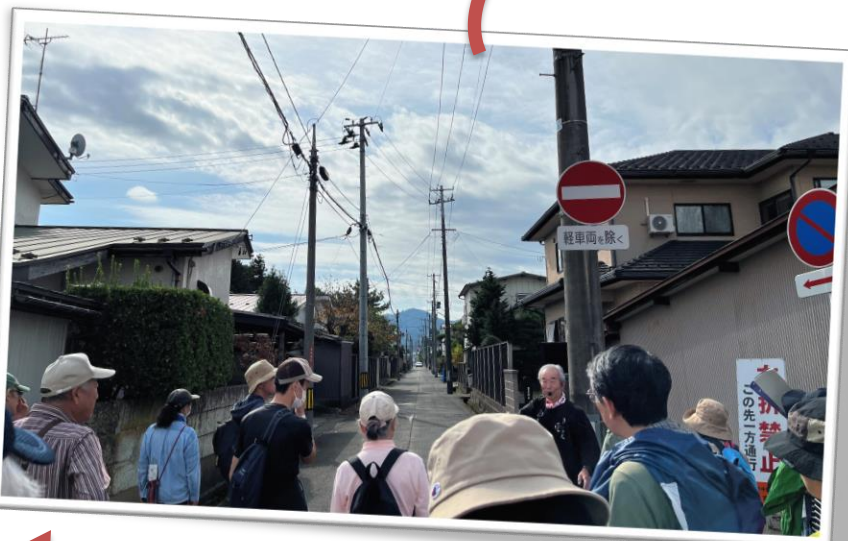
⑩鶴岡公園外濠

鶴岡公園の前の街道からは美しい山並みを望むことができます。

元からあるこの高低差を活かして視点を整備していくと、金峯山が美しく見えて、市民に景観の美しさを認識させやすくなると講師は語ります。



あの木がある辺りにベンチを置いて眺めたら、金峯山の印象はどうでしょうか？



⑨渋紙小路

小路の由来には諸説ありますが、各家が隣家と調和を図りながら、連続した黒塀の小路をつなぎ、住民の景観への意識の高さを垣間見ることができます。

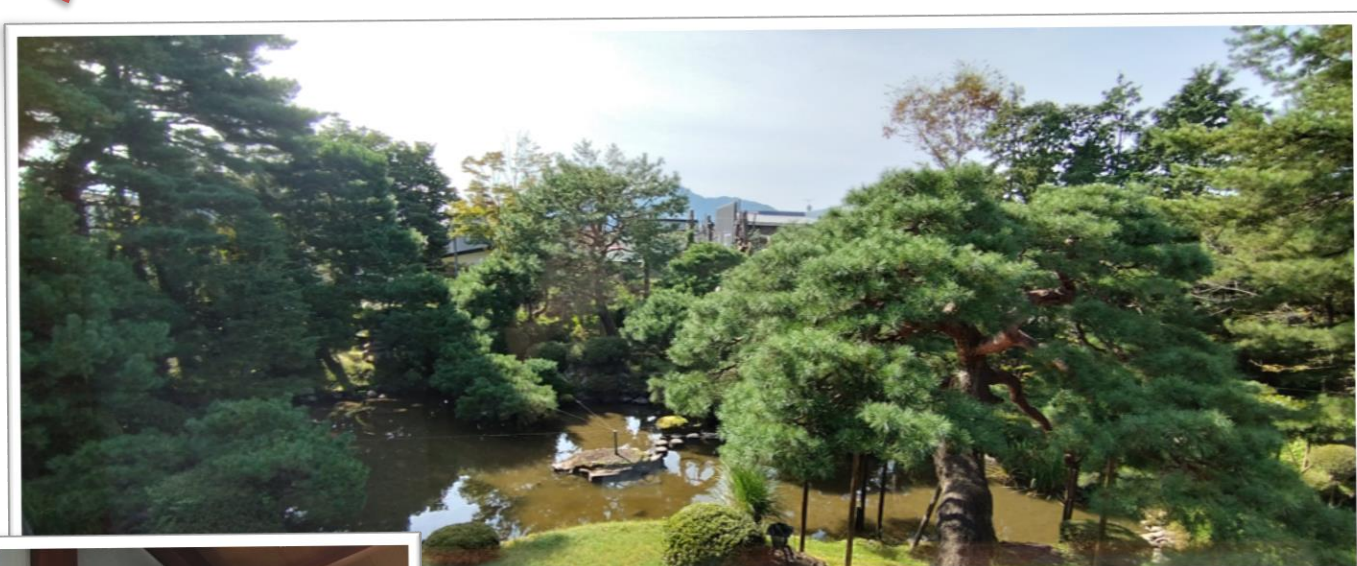


⑧大山街道口木戸口跡



⑦羽前絹練株式会社

明治39年(1906)に創業して絹織物の精練工程を創業当時の釜を用い、現在も行われている工場です。黒い板塀と門脇の松が一体となり昔の街並みの面影が感じられます。まちあるき開催後、令和6年12月3日に国登録有形文化財となりました。



⑤新茶屋・庭園

営業中、特別に内部を見学させていただきました。

鶴岡市民にとってよく法要等が行われる場所ですが、建物の細部には、再現するのは難しいような凝った意匠の細工がたくさんあり、中でもマジョリカタイルはとて有名です。二階の客室からは庭園越しに金峯山を眺めることができました。



④鯉川酒造

現在酒造りは行われていないようですが、軒下には羽黒山出羽三山神社「魔除けの引綱(ひきづな)」が飾られており、荘内大祭の際には恒例の撮影スポットになるほど、歴史を感じる外観です。



割烹「三浦屋」

大正から太平洋戦争終戦頃まで栄えた鶴岡の料亭文化を今に伝える貴重な建物です。

木造3階建て、東京で最先端のデザインを学んだ4人の棟梁の競作として、1938(昭和13)年に建築されたそうです。

現在は営業していませんが、特別に玄関の内部を見学させていただくことができました。



③七日町観音堂

大通りから光明寺小路を抜けると、七日町観音堂があります。

毎年12月17日に七日町観音堂の例祭が行われ、境内には朝から、だるまや熊手、招き猫など正月の縁起物売る出店が並び賑やかになるそうです。

観音堂前駐車場では七日町商店街の「歳の市」も開かれ、「福」を求める参拝客で賑わいます。

参拝しようと境内に入ると、天井一面に絵が現れ、その美しさに参加者達はとても喜んでいました。



鶴岡公園周辺を巡る

3.5 km

- ①十日町口木戸跡
- ②鶴園橋
観音小路
- ③観音堂
稲荷小路
- ④鯉川酒造
- ⑤新茶屋・庭園
- ⑥鍛冶町口木戸跡
- ⑦羽前絹練
- ⑧大山街道口木戸跡
- ⑨菅家庭園
渋紙小路
- ⑩鶴岡公園外濠
(景観物語ビューポイント)